

総合計画審議会計画推進評価部会（11月2日）の意見と対応

項目	委員名	意見要旨	対応
県民ニーズ調査	三井委員	県民ニーズの動向について、施策の直接的な当事者とあまり関係のない人としては受け止め方が非常に異なるため、県民満足度を記載するのは難しく、どれだけ意味があるのかも疑問である。	満足度調査、重要度調査のいずれの項目を選ぶかは局の判断とすることとします。
県民ニーズ調査	大木委員	重要度調査が大事になる項目もあるはずであり、一概に満足度調査と重要度調査を記載するしないという議論よりも、個別に議論が必要ではないか。	満足度調査、重要度調査などのいずれの項目を選ぶかは局の判断とすることとします。
県民ニーズ調査	大久保副部長	県民ニーズ調査を使用するならば、政令市とそれ以外に分けるなど、地域差を少しでも反映できるようにしたほうがいい。一つの数字だけでは横浜・川崎の数字であるように見える。	プロジェクトは地域別の施策とはなっていないことから、原則として全県のデータを示すこととしますが、事務局は地域別の調査結果の把握に努めてまいります。
記載順序	三井委員	県の一次評価が最初で、次に総計審の二次評価という順序は再考したほうが良い。	
記載順序	山本(亮)委員	「今後の課題と対応方向」欄についても1ページ目に移動し、内容を縮めてもそこまでを1ページに収めたほうが良い。	いただいたご意見のとおり 最終評価、総合評価、今後の課題と対応方向の順に原則1ページ目に記載することとします。
記載順序	牛山部長	「今後の課題と対応方向」欄を前に持ってくることに賛成である。	
記載順序	大木委員	最初に最終評価があるべきであり、タイトルの横に記載してもいいのではないか。	
県民意見	原委員	総合分析と最終評価の間に県民意見を取り入れるべきである。	意見募集するにあたっては、冊子にまとめる必要があり、毎年度の県民参加はスケジュール的に難しい面もございますが、計画の最終年度における例として、平成22年の神奈川力構想の点検や、かながわランドデザイン（第1期）の点検報告書（素案）において県民参加を実施しており、今後も点検の際に県民参加を実施してまいります。 また、総合評価において、県民ニーズ調査を活用することにより、県民ニーズの動向の把握に努めてまいります。 なお、県民意見を代表していただくため部会や総合計画審議会には公募委員にご参加いただいているところです。
県民意見	三井委員	お金と時間がかかるので、簡単ではないが、県民参加型の評価ができるといい。最低限プロジェクトの最終年度に広く県民から意見を募集し、その結果を次に伝えていくことも一つの方法である。	
県民意見	原委員	ソーシャルメディアを活用した意見募集等の中で、参考となる意見があれば、会議の場ですべて出していただくような形式でもよいのではないか。	
県民意見	関委員	一次評価の前や二次評価の審議前までに、ホームページ等で常にランドデザインについて意見を募集して、その意見を審議会の場に示すといったことはできるのか。	
その他	三井委員	総合評価に対して、数値目標ばかりが重視されるような印象を与えないほうが良い。	総合的に評価した結果であることを報告書に記載することとします。
その他	木曾委員	数値目標の達成状況の部分に、目標値の設定根拠が記載されていないため、100%の達成率の妥当性を評価できない。	いただいたご意見のとおり、注釈を付して対応することとします。

項目	委員名	意見要旨
県民ニーズ調査	浪江委員	重要度調査と満足度調査を数値で表示するのではなく棒グラフにしたうえで、同一の表上に示して比較しやすくしたほうがよい。
県民ニーズ調査	木曾委員	評価報告書の一次評価や二次評価は、プロジェクトの進捗状況に対する評価であるが、県民ニーズ調査の満足度は、プロジェクトの目標に対してどれ位、満足度が上がったのか下がったのかというレベルのものであり、そのまま評価として扱うことが難しいということは理解できる。
県民ニーズ調査	岡谷委員	県民ニーズ調査の質問項目の作成はとても重要になると思うが、いろいろな角度からの政策の満足度や重要度を1つの質問で包括できているのかどうかをどのように見ていけばよいのか。
その他	木村委員	「総合分析」欄と「主な取組みと成果」欄の記載が少しオーバーラップしており、総合分析は「何をやってどういう結果が出たのでこういう評価をした」という形にすべきではないか。